

構想の実現状況等（概要） ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1 ページ】

【Ⅰ．事業全体の取組について】

京都大学ジャパンゲートウェイ構想では、戦略的・創造的・継続的な国際教育プログラム等の実施による国際化を目指し、世界トップレベル大学との共同実施科目をコアとする大学院教育、教育環境や制度等の国際化、目標達成に向けた戦略を3つの基本方針として、以下に挙げる様々な事業等を実施してきた。

○スーパーグローバルコース、ジョイントディグリー／ダブルディグリープログラムの実施と大学院教育の国際化

大学院教育の国際化については、数学、化学、医学生命、人文社会科学、環境学、社会健康医学を参加分野とした「スーパーグローバルコース」において、海外大学の研究者による講義の提供や論文の共同指導、ジョイントディグリー／ダブルディグリープログラムの開発等の取り組みを中心に進めてきた。これらスーパーグローバルコースで実施している事業は、各大学院研究科で共通する課題等に一元的に対応する組織として設置した大学院教育支援機構においてその活動を支援している。大学院教育支援機構では、更なる国際化を進展させる取り組みとして、優秀な留学生獲得のためのリクルーティング活動、国際学会での研究発表、海外での共同研究のための海外渡航の助成推進等を実施している。

○Kyoto iUP の実施と学部教育の国際化

学部教育の国際化は、「Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP)」を中心に推進してきた。Kyoto iUP は、優秀で志高い留学生の学段落階での受入れを拡充するとともに、国際性豊かなキャンパス環境を創造し、同時に国際社会で活躍する日本人学生を養成することを目的としたプログラムで、入学段階での日本語能力は不問とし、入学決定後に徹底した日本語教育を継続的に実施しながら、英語による教養・共通教育を経て、専門教育段階から日本語で講義等を受講し、グローバル展開を図る日本企業へ留学生を輩出、日本社会への定着を図ることを目指している。加えて、日本人学部学生の国際化の施策として、海外留学や Kyoto iUP 生とのグループワークを組み合わせた「国際高等教育院国際教育プログラム」を2022年から開始した。

また、国際高等教育院における外国人教員の受入制度により、英語による全学共通科目（E2 科目）を2023年現在で340科目整備した。E2 科目の単位修得は全ての学部において卒業に必須となっており、英語を学ぶことに加え、英語で学ぶ環境の整備も進めている。これらの英語教育の効果を図ることなどを目的に、英語を履修する全ての1年次学生を対象に、前期と後期にTOEFL ITP の受験を課している。これらの結果、事業開始前の2013年に、指標の語学レベルにあった者が72人であったのが、2023年には7,994人と大きく伸張している。

【Ⅱ．事業期間での大学の成長（アウトカムとの繋がり）】

Kyoto iUP の実施や大学院教育支援機構における留学生リクルーティング活動等により、外国人留学生の数は、事業開始時と比較すると大きく増加している（2013年 2,210人→2023年 3,750人）。

この大きく増加した留学生やスーパーグローバルコース、Kyoto iUP 生に対する英語での講義等を実施するために、多くの外国人教員数の雇用が必要であり、そのために年俸制（2013年 630人→2023年 972人）やテニユアトラック制（2013年 4人→2023年 38人）などの柔軟な人事制度の導入や国際高等教育院における英語による全学共通科目を実施するための外国人教員の受入制度、授業実施期間外に英語での集中講義を実施するための教養・共通教育集中講義担当外国人教員招へい制度等により、積極的な雇用を進めた結果、外国人（籍）教員は事業実施期間に大きく伸び（2013年 139人→2023年 282人）、その結果、これらの外国人教員等が実施する外国語による授業科目数も大きく増加した（2013年 639科目→2023年 1,481科目）。

このように、事業開始当初に掲げた構想に基づき実施した取り組み等により国際性を示す数値として向上したものに加え、従前、各研究科で個々に実施してきた留学生のリクルーティングや大学院生の海外渡航の助成などを、全学を横断した形で行う大学院教育支援機構を発足させるなど、数値としては直接表せない面でも大学を成長させることができたと言える。このようにスーパーグローバル事業実施期間に進めてきた施策により、本学がこれからも世界のトップ大学とわたりあうための国際環境を発展させることができた。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

【Ⅰ. 事業全般について】

○ジョイントディグリー／ダブルディグリーの設置・運営

スーパーグローバルコースの人文社会科学分野を構成する文学研究科において、2017年10月に日本初の人文社会系ジョイントディグリー専攻（京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境専攻）を開設し、また経済学研究科では経済学・経営学系として日本初、そして日本初のコンソーシアム型JDであるグラスゴー大学、バルセロナ大学との3大学によるジョイントディグリー専攻（京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻）を2021年9月に開設した。また、医学生命分野では世界最高水準の教育研究拠点の形成に取り組んでいるマギル大学と「京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻」を開設した。

加えて、ダブルディグリーもこれまでに23件を締結するなど、世界のトップレベル大学との連携の下で、国際的に質の高い教育を提供している。

○大学院教育支援機構の設置と国際化推進の取組

2021年10月に、大学院に共通する課題等に一元的に対応するための組織として、大学院教育支援機構を設置した。当機構では国際化推進の取組の1つとして、海外から本学大学院への入学を希望する者に対して、出願前の学歴検証や受入希望教員とのマッチング支援等を行うアドミッション支援室の整備を実施した。このアドミッション支援室の業務内容や学歴検証に係るノウハウ等を他大学にも共有することで、各大学におけるアドミッション支援部門の設置や業務効率化に貢献した。独自開発したシステムについては、日本全体で留学生受入を推進するために他大学にも提供しており、北海道大学、大阪大学、広島大学、九州大学でも導入されている。また当機構では、学生の海外派遣に係る施策として、大学院生がフィールド調査や、海外での共同研究、海外の研究室で研究指導を受けるなどの目的で海外へ渡航するための大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金の創設、また、留学生の受入に係る施策として、台湾教育部が世界16のトップ大学と実施している博士課程共同奨学金に日本で初めての大学として本学が参加し、Taiwan Kyoto University Scholarshipを2023年に創設するなど、様々な取り組みを進めている。

○Kyoto iUPの実施と国際高等教育院国際教育プログラムの新設

Kyoto iUPは2018年10月に第1期生3名（3の国・地域）の予備教育課程への受入を開始して以降、順次受入の拡大を進め、2023年度実施の選抜審査（2024年10月入学予定）では31名（10の国・地域）が最終合格した。なお、2018年10月生選抜審査では33名であった応募者数が、2023年度実施の選抜審査では過去最多となる576名（55の国・地域）と大幅に増加するなど、各国・地域や留学生のニーズを確実に把握して展開している。

また、日本人版Kyoto iUPといえる「国際高等教育院国際教育プログラム」を2022年から開始した。このプログラムは学部学生を対象に異文化や異なる価値観を理解し、新たな価値観を創造する真の国際性を涵養する学部教育プログラムであり、英語による全学共通科目や海外留学の経験に加え、Kyoto iUP留学生と地球温暖化などの気候変動問題等を題材にグループワーク等を行う科目「Interdisciplinary Sciences-E2 :Global Changes」の履修を修了要件としている。このように学部教育の国際化については、Kyoto iUPを中心に、更にそれを学内に広げるための施策も進めている。

【Ⅱ. コロナ禍への対応について】

コロナ禍では、海外からの教員の招へいや学生の派遣を前提としたプログラム等の実施が困難であったため、海外からのオンラインによる授業やオンラインでの派遣及び受入プログラムを実施した。一方で、実際の海外留学へのモチベーションの維持・創出のために、「留学のススメ WEEKS」と題した年間を通じての各種留学説明会や海外協定校からの交換留学生に母校を紹介してもらう「協定校ひろば」を実施し、学生の国際教育交流が途切れることのないよう、様々な面からオンラインを活用した。

また、本学ASEAN拠点ではコロナ禍で難しかったフィールドワークや実習教材の開発支援として、VRやドローンの映像を活用した動画などの教材をアーカイブするポータルサイト「Kyoto-ASEAN Virtual Field」を構築し、学内のみならず学外でも利用できるように一般にも無料開放した。

「コロナ下の遠隔講義 VRやドローン、大学の工夫多彩に」（NIKKEI STYLE 2021.8.2（日経新聞 7.7朝刊））
<https://style.nikkei.com/article/DGXXKZ073616940W1A700C2TCN000?channel=DF070520206063>